

(仮称) 国際工芸美術館実施設計の進捗状況について

(仮称) 国際工芸美術館実施設計の進捗状況について報告します。

1 実施設計の進捗について

(1) 今年度の進捗状況について

2022年4月から実施設計を再開後、7月からは、「建築基準法」や「東京における自然の保護と回復に関する条例」など、法令に基づく各種申請手続きを進めております。

9月には、建築基準法に基づく特例許可の手続きのため、近隣住民の方に計画概要のお知らせを2度、ポスティングにて周知しております。この資料をご覧いただき、計画についてご意見をいただいた方に対しては、直接訪問を行い、詳しくご意見をお聞きするとともに、計画の概要を丁寧にご説明いたしました。

また、11月17日には建築基準法に基づく特例許可の手続きとして、近隣住民の方の意見を公開の場で聞く公聴会を開催しました。12月19日には、建築審査会の開催を予定しております。

(2) 工期の延長について

実施設計業務については、2022年12月23日までの工期としておりましたが、2022年第3回定例会で報告を行ったエレベーター棟の配置変更の検討に加え、建築基準法の許可に伴う近隣周知や意見への対応などを丁寧に行ったことなどに時間を要したため、2023年3月末までかかる見込みです。

工事の契約については2023年第1回定例会での工事契約議案の上程を予定しておりましたが、現在、2023年第2回定例会での工事契約議案の上程を予定しております。

なお、工事の完成についても約3ヶ月遅れることとなりますが、からし期間の調整により、オープン予定は変更ございません。

(仮称) 国際工芸美術館整備スケジュール

2021				2022				2023				2024				2025				2026															
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
当初予定スケジュール																																			
変更スケジュール																																			

2 実施設計に基づく工事費について

実施設計中ではありますが、概算工事費を算出したところ、現在約33億4千万円です。当初予算に計上した工事費28億6千万円から減額に努め、1億8千万円減額しましたが、その後の資材高騰等により6億6千万円増額し、差し引き4億8千万円増額しています。その要因は以下の通りです。また、ランニングコストについても検討しています。

【概算工事費の検討】

概算工事費の増減額の項目		差引増減額	合計額
増額 要因	資材高騰（別紙参照）	5億4千万円	6億6千万円
	E Vの配置変更	4千万円	
	仕様変更	8千万円	
減額 要因	スロープの計画見直し	▲1億1千万円	▲1億8千万円
	G R Cパネルから陶板タイルへの変更	▲4千万円	
	ロビー屋根の防水仕上の変更	▲1千万円	
	E V棟外構階段の変更	▲8百万円	
	展示室の天井仕上の変更	▲5百万円	
	その他変更	▲7百万円	
差引増減額の総合計			4億8千万円

【外壁塗装にかかるランニングコストの比較（60年間にかかるコスト）】

	塗装の比較	今回の見直し	塗装費用 (1回)	塗装頻度 (回数)	60年間に かかるコスト	削減効果額
収蔵庫 部分	GRCパネル + 塗装	×	1千7百万円	10年毎 (6回)	1億2百万円	▲1億2百万円
	陶板タイル 塗装なし	◎	不要	-	0円	
その他の 部分 (打ち放 しコンク リート)	ウレタン 塗装	×	1千7百万円	10年毎 (6回)	1億2百万円	▲2千7百万円
	光触媒 クリア塗装 (※)	◎	2千5百万円	20年毎 (3回)	7千5百万円	
ランニングコスト（60年間）の削減効果額の合計						▲1億2千9百万円

※光触媒クリア塗装による維持管理のメリット

外壁に埃や雨染み等の汚れが付着しにくくなることで日常の清掃頻度を軽減できるほか、建物躯体の経年による劣化を軽減する効果が期待できます。

■ 資材高騰による工事費の上昇について

2020年11月に算出した基本設計による概算工事費(当初予算に計上した工事費)と、2022年10月時点の工事費の上昇率(①)を算出し、市場の同期間の工事費上昇率(②)と比較しました。

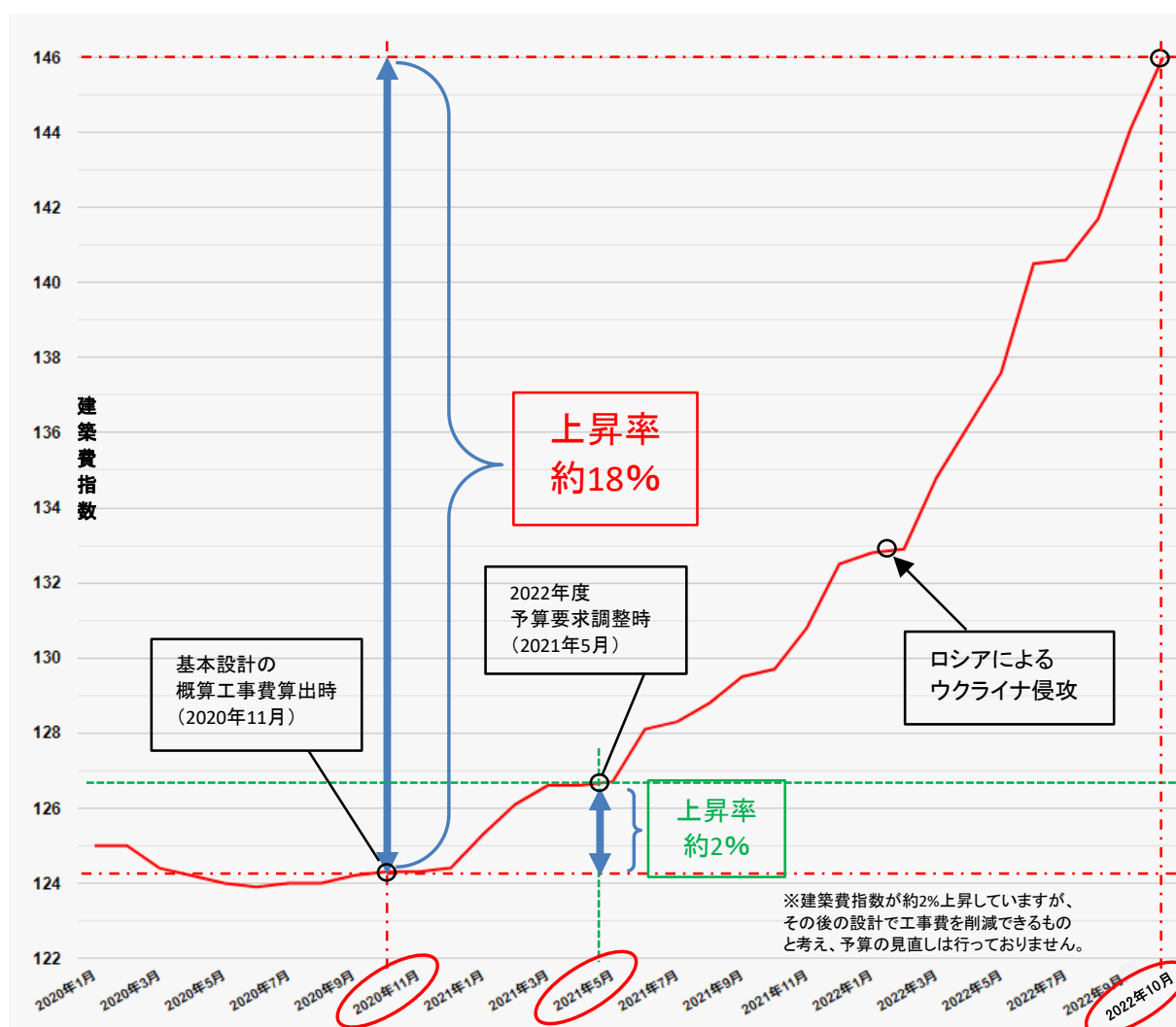
① (仮称)国際工芸美術館等における資材高騰による工事費上昇率

工事費の増額	工事費上昇率
約5億4千万円	約19%

② 市場の工事費上昇率(建築費指数)

※建築費指数とは、建築物の工事価格の動向を把握するための物価指数で、市場の建設費の変動を時系列的に観察することができます。

市場の工事費(建築費指数)	上昇率
建築 鉄筋コンクリート造	約18%



※出典: 一般財団法人建設物価調査会が公開している建築費指数グラフより(2022年12月1日現在)